

令和7年 京都御所 新春の展示

今回の展示作品

富士山

模写：宇田荻邨^{てきそん}（昭和33年）

原画（焼失）：鶴澤探真^{つるさわたんしん}（安政2年）

本展示は、新年にふさわしく、美しさや雄大さから日本を代表する名峰とされる富士山の襖絵4面を展示します。

襖は京都御所の小御所の中段の間北側にあるもので、画面全体に金泥や胡粉^{ふん}による雲が画かれています。清涼殿の襖絵などでも見られる青いすやり霞^{がすみ}と相まって、とても華やかな図となっています。



安政度造営（1855年）の折、鶴澤派の7代目である鶴澤探真^{みつぶみ}は、土佐光文とともに絵師頭取^{とうどり}として障壁画製作に尽力しました。探真が製作した襖は、残念ながら昭和29年の小御所の火災により焼失しましたが、宇田荻邨が下絵を基に模写を製作しました。



小御所 外観



小御所 中段の間

京都御所



「富士山」
の展示場所

小御所